

令和6年度第2回 岐阜市立女子短期大学運営委員会報告書

1 日 時 令和7年2月20日（木）13時30分～15時00分

2 場 所 岐阜市立女子短期大学 大会議室

3 出席者 (1) 外部委員（1号委員）出席4名
片岡委員、後藤委員、近藤委員、廣田委員
(2) 学内委員（2号委員）出席4名
畑中学長、服部副学長、大澤附属図書館長、久米事務局長

4 次 第 (1) 令和6年度の取組
(2) 新大学将来構想の検討
(3) その他

5 委員の意見

○意見1

交換留学等、海外との連携は関係が途切れないよう、毎年継続していくべき。

○意見2

高卒・短大卒と大卒を比較した場合、大卒の方が就職先の選択肢が多い。その中で短大としては、特定の就職先、分野に特化しているという特徴を学科ごとに生かすべき。また、学費といった経済的な面も強みと考えられる。

○意見3

四大化にあたっては、小中高の教員養成の一環として教員免許が取れるとよいと考える。学生たちもどのような資格が取れるかを大学選択の条件の1つとしている。

また、長く親しまれた岐女短の流れを継いで、被服デザインや食物栄養の学びを取り入れてほしい。

○意見4

管理栄養士過程を持つ四年制大学となることを期待する。制度の改定があったことから、管理栄養士の需要がとても高まっている。また、管理栄養士の将来には病院や学校、介護福祉施設で働くのみだけでなく、起業という選択肢があり、短大の方針にも合っている。

○意見5

街中へ新大学の設置をしてもらいたい。公立大学が街中にできて、若者が訪れることは岐阜市の活性化に繋がる。